

若者とソーシャルを結ぶデジタルフリーマガジン

alterna **× S**

Apr.
2011
vol.1

特集 東日本大震災 若者たちの支援

3.11
僕らも目覚め、
動き始めた。

巻頭インタビュー

prayforjapan.jp 企画・制作者

鶴田浩之

Facebook で5万人の心を
揺さぶった20歳の大学生





足りない物あったら言ってとよく言われるが、
「津波で亡くなった親友」とは
本心なんだけど言える訳がない…。

(syain_tasuku) on Twitter

ここに新しい故郷をつくるんだ。思い出に負けない故郷にするんだ。

04

オルタナ S への参加方法

目次タイトルをクリックすると、
該当ページに飛ぶことができます

05

オルタナ S 宣言

Apr.
2011
vol.1

06

オルタナ "S" youth

prayforjapan.jp 企画・制作者

鶴田浩之

つ る だ ひ ろ ゆ き

Facebook で 5 万人の心を
揺さぶった 20 歳の大学生



09

そのとき、若者はどう動いたか？

被災地レポート ～現状と被災地での支援～

そのとき、
若者はどう動いたか？

追悼 prayforjapan ～希望のメッセージ～

twitter 拾い読み



15

オルタナティブな生き方

手織り工房じょうた 主宰

残糸を使った織りで
祖母の思いを紡ぐ

城 達也

じょう た つ や



18

オルタナ "S" cool (エスクール) 第 2 回開催レポート

株式会社アバンティ代表取締役社長

オーガニックコットンで、
環境保全と自動労働問題に取り組む

渡邊智恵子

わたなべ ち え こ



20

編集後記 & 次号予告

オルタナ S について

「オルタナ S」は若者による社会変革を応援するソーシャルメディアです。Web サイトと月に一度配信するデジタルフリーマガジンから構成され、全国の学生や若者を対象にソーシャル (社会的)、エシカル (倫理的)、エコ (環境) をテーマとした情報を発信します。無料のユーザー登録をすることでオルタナ S サイトへの投稿やデジタルフリーマガジン「オルタナ S」の閲覧ができ、オルタナ S へ参加できます。ユーザーの参加によってオルタナ S は作られます。

ソーシャルメディアの即時性と双方向性を生かし、ユーザーがソーシャルな人や団体、企業とつながるプラットフォームです。



click

NIPPON
POSTER
PROJECT

Nippon Poster Project
(ニッポン・ポスター・プロジェクト)

——これからの日本に、思いをこめて。

オルタナ S では、「これからの日本」を考えていくための一つの方法として、『Nippon poster project』を始めました。これまでに 3 4 作品が投稿され、2 ページ目のポスターはその一部です。

今後は掲載だけではなく、被災地への支援の一つの形として継続的に運営していく予定です。上記ロゴをクリックすると特設サイトへ行くことができますので、ぜひご覧ください。



オルタナ S への参加方法

1

オルタナ S サイト上での同世代エシカルピープルとの交流

オルタナ S サイトでは記事の更新とともに、ソーシャル系の学生団体や NPO、ユーザー同士の交流スペースを設けます。「何かいいことをしたいんだけどどうすればいいの？」そんなあなたに新しい” つながり” を提供します！

2

オルタナ” S” cool (オルタナエスクール) への優先参加

オルタナ S ではオフラインの場でのイベント、オルタナ” S” cool (エスクール) を開催します。エシカル・ソーシャルな方々とのダイアログカフェ、映画上映会や、エコツアーなどを企画し、参加者の” アンテナ” を広げます！

3

オルタナ S 編集部への取材依頼や、記者として編集部の一員に！

オルタナ S はユーザーとともに作っていくメディアです。ユーザーのみなさんが取材してほしい話題や人をお知らせください。「記事を書きたい！」というライター志望の方は編集員になれるチャンスもあります！希望者は info@alternas.jp まで。

4

オルタナ S 編集部からのメールマガジンでソーシャルな情報を GET

オルタナ S ではメールマガジンを月 2 回配信します。ユーザー参加企画の情報やパートナーの団体からの情報などをお届けします。もちろん、ユーザーのみなさんからの情報も受け付けています！

5

各種 SNS を通じてリアルタイムに編集部からの情報を発信！

編集部ではサイトの他に twitter、Facebook、mixi を通じて情報を発信します！ twitter では記事の更新情報や編集委員のつぶやきを随時発信。Facebook や mixi ではユーザーとのディスカッションを展開します。ぜひチェックしてみてくださいね！

オルタナ S の各種 SNS はこちらから！ >>>



alterna × S

オルタナ S は若者 (Students and youngsters) による
社会変革 (Social Innovations) を応援する「デジタルフリーマガジン」です。

日本は GNP 世界第 3 位の経済大国です。高度経済成長期を経て、便利で物に恵まれた暮らしを実現しました。しかし、その一方で、地球環境問題や心の病の問題、自殺者の増加など様々な問題が起こってきました。

これらの事実は「物質的に豊かになることが必ずしも人々の幸せと結び付いてはいない」ことを示しています。

イギリスのレスター大学が発表した「世界幸福度ランキング」(2006 年)によると、日本は 178 カ国中 90 位です。1 位はデンマーク、2 位 スイス連邦、3 位 オーストリア共和国となっています。

何をもちて幸福とするかは難しいところですが、少なくとも日本で幸福感を感じている人の割合が低い方にある、ということは言えます。

そんな中、物質主義に代わる新たな価値観が模索され始めてきました。それは地球環境や人・社会を大切にすることが自身の幸福につながるといった価値観です。そして、そういった価値観を持ち、行動に移す若者が増えてきています。

例えば、都会から農村へ移住し、農業をする若者や社会企業家、NPO/NGO への就職を希望する若者、など。彼らがそれまでの物質主義・拝金主義的な価値観とは異なった価値観を持っていることは明らかです。

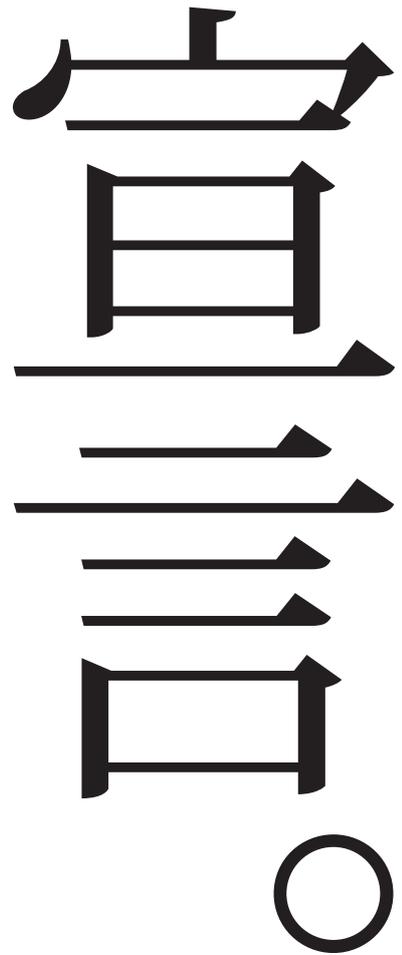
お金や物質的な豊かさを求めて、というよりも自分自身がつも問題意識やそれをするによって得られるやりがいによって突き動かされているのではないのでしょうか。

当然のことながら、海外の貧困、人権侵害、教育の欠如、経済格差、戦争や内戦などの問題にも目を向けていきます。

オルタナ S は「ソーシャル」「エコ」「エシカル」などの価値観を大事にし、若者による社会変革を後押しします。これから、どうぞよろしくお願い致します。

オルタナ S 編集長

猪鹿倉 陽子



alterna^S

Youth

Facebook で 5 万人の心を 揺さぶった 20 歳の大学生

3月11日、東日本大震災発生後、Twitter 上で日本への応援メッセージが海外から続々とつづやかれた。これらのメッセージをまとめ、「prayforjapan.jp」というサイトを立ち上げた若干 20 歳の若者がいた。Facebook はファンのが 5 万人以上と、国内規模 6 位に急成長した。鶴田浩之さんにその想いを語ってもらった。

(聞き手 = 編集長 猪鹿倉陽子、副編集長 高橋遼)



pray for japan.jp

企画・制作者

つるだひろゆき

慶応義塾大学環境情報学部 2 年

鶴

田

浩

之



click prayforjapan.jp のトップページ

2時間でサイトを立ち上げ

—震災発生からサイトを立ち上げるまでの経緯を教えてください。

震災発生時、僕は栃木県的那須自動車学校で免許合宿に参加していました。震度6強の場所

だったのですが被害は少なく、夜は宿舎の1Fにみんなで泊まることになりました。

自分のノートパソコンとイーモバイルがつかったので、NHKのUstream（生中継サイト）やTwitterを見て情報収集をしました。その日の深夜、prayforjapanというムーブメントが起きているのを見たのがすべての始まりでした。ハッシュタグ（キーワード）「#prayforjapan」を付けた日本への祈りのツイート（つぶやき）が次々に投稿されていたのです。

多くの僕のフォロワーがこれについてツイートしていたし、ニュースサイトでも取り上げられていました。しかし、この時点でこのツイートがまとめられているサイトはありませんでした。

アクセス集中でサーバーダウン

2日目の夜にはこのサイト自体について、1分間に1回ぐらいのペースで「感動した」「泣ける」といったツイートがつぶやかれるようになりました。その後やはり、アクセスが集中しサーバーがダウンしてしまいました。

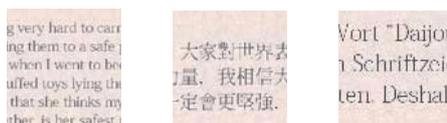
すると、サーバー管理会社から「負荷がかかっています」というメールが来ました。サイトを止められてしまうかもしれないと思ったのですが、「コンテンツを拝見し、弊社としてもぜひ協力したい」と言っていただき、トラフィック分散の処理をしてくれました。

3日目には翻訳してほしいという問い合わせが多くきていたので、友人に頼んでシステムを

作り直し、エディター権限を持たれば誰でも翻訳できるような仕組みにしました。翻訳している人は全員ボランティアで、30名以上が登録し、現在12カ国語に翻訳しています。ボランティアからたくさん翻訳したいという問い合わせももらったのも嬉しかったですね。



click prayforjapan.jpに続々と掲載されるメッセージ



click 左から英語、中国語、独語に翻訳されたメッセージ

になれたことを実感し、震えが止まらなくなり、嬉しかったです。小さな宿舎所で始めたことが世界に広まり、これだけの反響ももらったのが驚きでした。

現在はTwitterのアカウントを作り、「新しく救助された人がいる」などポジティブなニュースを出しています。Facebookのページは今、約50000件の「いいね!」という評価をもらい、国内で6位の規模になりました。ここでは、Twitter以上に、いろんな言語で活発な議論がされています。

「イギリスで募金活動を始めた」「ニュージーランドで動画をつくった」などの情報が出ており、プラットフォームになっています。今では僕はほとんど参加していませんが活発ですね。

今は、prayforjapan.jpのサイトとTwitterとフェイスブックを軸に、日本の「prayforjapan.jp」としての活動を多面的にコーディネートしている段階になります。



click prayforjapan.jpのfacebookページ

そこで、Twitterをやっている人以外にも見られるよう可視化し、いろいろな人に知ってもらいたいと思い、早速「prayforjapan.jp」のドメインをとって2時間でサイトを立ち上げ、公開しました。

2日目の昼間には電気も回復したので、夕方ごろから国内の心あたたまるツイートをもとめ始めました。こうして、「#prayforjapan」が付いたメッセージを自動的に集め、表示するページと、日本での心温まるエピソードやツイートを僕が選び、編集した上で公開するページの2つのサイトができました。後者のサイトは公開から3時間でサーバーが落ちるほどトラフィックが集まってきました。

Facebookは国内6位に

—サイトに対する反響は他にもありましたか。

3日目からコラボレーションや書籍化、翻訳の問い合わせなどが300件ぐらいきました。それに加えて、面識のない方からのTwitterのコメントが約800件、Facebookから約100件、メールで約100件、計1000件のメッセージをいただきました。「サイトを作ってくれてありがとう」「このサイトを見て私にも何かできるかもしれないと思い、募金活動始めました」といった内容です。

その反応を見て、自分が作ったものが世界に広まって人の心を動かし、行動を促すきっかけ

—情報発信は一方方向になりがちですが、Facebookで双方向に自発的な議論がされているのはSNSの力ですね。そして、これは今回の震災を象徴する顕著な例だと思えます。ウェブサービスの開発を元々やられていましたが、今回、同世代の意識の変化を感じましたか。

これを20歳の学生が作ったという事実を見て、同世代の人が自分も何かできるかもしれないという気持ちを持ってもらえたら意義あることだと思います。今もTwitterでprayforjapan.jpをキーワード検索するとサイトを見た人からの「何か自分もしたい」「日本人でよかった」というようなコメントが20万件ほど出てきます。